

かいづしな い きょういくげんば がいこくせきじどう せいと たいおう げんじょう 海津市内の教育現場における外国籍児童・生徒への対応の現状

がいこくせきじどう せいとしゅうがくじょうきょう 1. 外国籍児童生徒就学状況 (R7.8. 8現在)

しょうがっこう
小学校

がっこう 学校	かいづしょう 海津小	いまおしょう 今尾小	かいさいしょう 海西小	いしづしょう 石津小	しろやましょう 城山小	しもたどしょう 下多度小
がいこくせきじどう 在籍者数	11	4	0	10	3	0
ぜんじどうすう 全児童数	423	137	96	193	226	57
わりあい 割合	2.6%	2.9%	0	5.2%	1.3%	0

ちゅうがっこう
中学校

がっこう 学校	にっしんちゅう 日新中	ひらたちゅう 平田中	じょうなんちゅう 城南中
がいこくせきせいと 在籍者数	2	4	5
ぜんせいとしゅう 全生徒数	260	160	316
わりあい 割合	0.7%	0.25%	1.6%

かいづしぜんたい
海津市全体では

2%

がくねんべつががいこくせきじどう せいとしゅうがくじょうきょう 2. 学年別外国籍児童生徒就学状況

がくねん 学年	しょう 小1	しょう 小2	しょう 小3	しょう 小4	しょう 小5	しょう 小6	ちゅう 中1	ちゅう 中2	ちゅう 中3
にんずう ※人数	7	5	3	4	4	5	4	4	3
ごうけい 合計	185	140	188	204	187	228	233	236	267
わりあい 割合%	3.8	3.6	1.6	2	2.1	2.2	1.7	1.7	1.1

がいこくせきじどう せいとしゅうがくじょうきょう
※外国籍児童生徒人数

- ・ げんざいらいねんど しん わんせい
現在来年度の新生1年生は 6. 8%であり、増加傾向にある

こくせきべつががいこくせきじどう せいとしゅうがくじょうきょう 3. 国籍別外国籍児童生徒就学状況

くに 国	ぱきすたん パキスタン	べとなむ ベトナム	ぶらじる ブラジル	すりらんか スリランカ	※その他
にんずう 人数	16	8	7	4	4

※その他は、たい・べるー・けにあ ちゅうごく
タイ・ベルー・ケニア・中国

しな いしょうちゅうがっこう たいおう 4. 市内小中学校の対応

【児童生徒への対応】

てんにゅうじ
<転入時>

- ・ がいこくせき じどう せいとし げん にゅう ばあい じどう せいとほんにん ほごしや がっこう こんだんかい おこな
外国籍の児童生徒が転入した場合、児童・生徒本人、保護者、学校で懇談会を行う。そ
こで、そだ かんきょう (がくしゅうめん ふく しょうきょう しよくぶんか などとともに にほんご ていどりかい
こで、育った環境(学習面も含む)、宗教、食文化などとともに日本語がどの程度理解

できるのかを確認し、何学年に在籍するのかを決めている。

<物的支援>

- ・また、日本語を他の言語に文字と音声で瞬時に変換する翻訳機であるポケトークを日本語指導が必要な児童・生徒が在籍する全ての学校に配備（全12台）しており、現在11台追加できる手続きを進めているところである。さらには、タブレット端末にグーグル翻訳アプリを入れており、児童・生徒同士が相手に伝えたい言葉を文字に変換して見せ合うなど意思疎通を図っている。

<人的支援>

- ・城山小学校、石津小学校及び城南中学校の3校において、週1回程度、外国語が話せる県の指導員の派遣を受けている。（授業や給食などの時間に寄り添い、日本語取得のサポートとともに保護者との懇談時の通訳などを行っている。）

←派遣される県の指導員は、ポルトガル語・タガログ語・中国語に限られている

- ・石津小学校、海津小学校、平田中学校、城南中学校の4校において、県の日本語指導教員が週3～4時間、日本語による日本語指導や学校生活に適応するための個別指導を行っている。

←週の多くの時間は、学級で普通に授業に参加しているという状況

- ・毎日3時間ずつ1か月間、オンラインで日本語初期指導講座が県により、開設されている。（昨年度は、10月に城山小学校が活用した。）

←県全体で何人という枠があり、その指導の時間に職員がついていなくてはいけない。

【保護者への対応】

<物的支援>

- ・児童生徒への対応と同様にポケトークやタブレットのグーグル翻訳アプリを用いて対応するようにしている。
- ・メール配信システム「すぐーる」は、日本語の他13言語に対応しており、自動翻訳し、内容を発信できるようになっている。

←13言語（英語・中国語2種類・韓国語・ポルトガル語・タガログ語・スペイン語・ベトナム語・ネパール語・インドネシア語・ヒンディー語・タイ語・フランス語）のみの翻訳であり、海津市に多い、パキスタン、ベトナム、スリランカからの転入者への対応ができない。

- ・今年度から、懇談時などの支援ができるように「かいづ国際交流の会」「ひらた日本語教室」の会員さんに通訳をお願いできる体制を整えている。

【職員への研修】

- ・教職員に対して、日本語指導が必要な児童生徒の支援の在り方の研修を7月7日（月）に実施している。（各校の管理職や関係者が参加）

5. 今後の課題

国内の他地域から転入した児童生徒や保護者は、一定程度の日本語理解が進んでいる。
しかし、現状として、父親が後から、母親や子供たちを日本に呼んでいる場合が多く、
全く日本語を理解できていない状態であることが多い。保護者が日本の学校生活について
よく理解できていない状態であり、仕事が忙しくなかなか連絡が取れない父親、全く
言葉が通じない母親への対応に学校は苦慮している。市全体として、児童生徒のみならず、
市への転入者全員を対象とした、日本での生活に対する「初期指導」を実施する必要性
があると考えている。